

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人圭愛会 児童発達支援事業所 まゆみ		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い職員配置を行っており、保育士資格者が多い体制により、子供たち一人ひとりに応じた丁寧な支援を提供しています。	全職員への研修を継続的に実施し、発達理解や支援方法の共有を行っています。加えて、手厚い支援が維持できるようシフト調整を行い、子供たち一人ひとりに寄り添える体制づくりを意識しています。	研修内容の充実を図り、より専門性の高い支援の提供に努めます。また、職員間の情報共有や連携を強化するとともに、業務の見直しや勤務調整の工夫により、安定した支援体制の更なる向上を目指します。
2	明確な支援方針のもと、日常生活における「保育」と発達支援としての「療育」の両面からアプローチを行っています。遊びの中での経験を大切にしながら、子供たち一人ひとりが持つ力を引き出し、将来の自立や社会生活につながる力を育てています。	支援方針や支援内容について職員間で定期的に共有・振り返りを行い、保育と療育を一体的に実践しています。遊びや生活の中で成功体験を大切にし、子どもの自己肯定感や社会性の育成につなげることを意識しています。	支援方針や支援内容の共有・振り返りを継続し、より一貫性のある支援の実践を目指します。また、事例検討や記録の活用を通して支援の質を高め、子どもの成功体験をさらに積み重ねられる関わりを充実させていきます。
3	季節に応じた行事や活動を取り入れることで、豊かな感性や社会性の育成、保護者の意見やニーズを積極的に取り入れ、家庭と連携した支援の充実にも努めています。	年間計画に基づき季節行事を実施し、子どもの感性や社会性の育成につなげています。あわせて、面談やモニタリング、おしゃべり会などを通して保護者の意見を取り入れ、家庭と情報共有しながら支援の充実を図っています。	年間計画に基づき季節行事の充実を図り、子どもの発達や興味に応じた活動内容の工夫に努めます。また、保護者の意見やニーズの把握と情報共有を強化することで、家庭と連携した支援の更なる充実を目指します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	隣接保育園との日常的な交流が少なく、子ども同士の間わりや集団経験の機会が限定的となっている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、交流機会の制限が続いたことで、隣接保育園との関係性や交流の機会が希薄になったことが要因と考えられる。	隣接保育園との関係性の再構築に向け、行事での交流機会を設けるとともに、定期的な交流を実施していきます。また、これまで同様に園庭の共有を継続し、日常的な間わりの機会を増やしていきます。
2	事業所の取り組みや支援内容について保護者への周知が十分とはいえず、アンケート結果においても「わからない」との回答が多く見られた。	事業所の取り組みや支援内容についての情報提供の機会や方法が十分ではなく、保護者に対して分かりやすく伝えきれていないことが要因と考えられる。	まゆみ通信や連絡帳、掲示物等を活用し、取り組みや支援内容、マニュアルなどについて分かりやすく情報発信を行っていきます。保護者への理解促進と情報共有の強化に努めます。
3	地域交流やきょうだいを対象としたイベントが未実施であり、地域とのつながりやきょうだい支援の機会が十分とは言えない。	日常の業務を優先する中で、地域交流やきょうだい児支援に関する企画・実施体制が十分に整っていないことが要因と考えられる。	地域の関係機関との連携を図りながら、交流機会を作り出し取り組むとともに、きょうだいも参加できるイベントの企画・実施を検討していきます。また、無理のない範囲で段階的に実施できる体制づくりを進めていきます。